



| | | | | | | |
|----------|-----|-----------|----|----------|------|-------|
| 岡輝中学校区情報 | 世帯数 | 14,011 世帯 | 人口 | 22,144 人 | 高齢化率 | 26.9% |
|----------|-----|-----------|----|----------|------|-------|

■活動のきっかけ

高齢化率が年々高まる今、支援を必要とする高齢者の方が様々な介護、リハビリのサービスを受けて少しずつですが元気を取り戻していきます。

しかし、元気になっても、長い時間、地域との関わりがなくなっていた高齢者にとって地域に出ていくことはとても大きな壁となっていました。

せっかく元気になったのに地域に出ていくことが難しくなった高齢者に、少しでも地域に出ていき、昔のように隣近所の人たちと協力し合って生活していたころをもう一度思い出してもらおうきっかけになればと思い、みんな食堂を始めました。

そして、地域の子どもたちやそのお父さん、お母さんにも参加してもらい、地域の現状を知ってもらおうきっかけを作り、地域で子どもやお年寄りをみんなで支えていく仕組みを作りたいと思っています。



■活動内容

①岡輝地区での「岡輝みんな食堂」の開催

・月に一回(第2日曜日) 地区内の施設を利用して食事を提供

※新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、食堂ではなく弁当配布を実施。

- ・令和3年3月からはフードパントリーを同時開催
- ・子どもからお年寄りまでが役割をもてる場所を目指す

・地域のボランティアの掘り起こし

②子供の居場所「ゆうやけすくーる」の開催

・月に1回(第4水曜日) 地域住民の事務所を借りて、宿題を教えたり、遊んだりなど自由に過ごす場を提供。

③他団体との協力・連携

- ・岡山こどもの居場所連携事業への参加
- ・同地区で子どもの居場所づくりに興味のある人たちとのつながり
- ・他の子ども食堂と協働でフード&ライフドライブの開催。

④防災活動

- ・公民館と共同で炊き出し訓練の開催
- ・災害時の炊き出しなどのボランティア活動
西日本豪雨災害では、避難所で炊き出しを実施

■活動の効果

参加者からは「普段は一人寂しく食事をすることが多いが、ご近所さんと一緒に食事ができ、いろいろとお話しできて楽しかった」「子どもの声が響く中でご飯を食べたのは久しぶりで楽しかった」「足が悪くても歩いて行ける距離に会場があるので参加しようと思った」などの声があり、ボランティアさんからは「席が一緒になった者同士が、楽しそうにお話ししている姿を見てまさに『居場所』だなと感じた」「時間の縛りなく出入りでき、気軽さを感じた」「自分の住んでいる地域にボランティアができる場所ができてありがたい」など、それぞれが「みんな食堂」という場を共有することの意義を感じていただいています。

岡輝
みんな
食堂



Okahira Minna Shokudo

■工夫していること

- ① 多業種、多分野にわたる多様な主体の参加。それぞれが得意分野を生かしつつ、ゆるやかにつながり、一市民として地域の課題解決に取り組んでいます。
- ② 一つの拠点の活動としてだけでなく、同様の事業を行う拠点との連携のため、7月に「こども食堂はじめまして交流会」の実施に関わっています。
- ③ フードバンク岡山など、ESD活動に先進的に取り組む団体と連携しています。
- ④ LINE、Facebook など、連絡手段としてさまざまなSNS、アプリを活用しています。
- ⑤ 取組の内容を一目で理解できるアイコンとして、レトロなイメージの「瑠璃水玉」の茶碗をメインモチーフとし多様性の象徴として7つの茶碗のイメージを作成しました。今後、同種の「みんな食堂」を開設する際には、のれん分けならぬ「茶碗分け」の仕組みを想定しています。



■参加対象者

利用者として、主に岡輝地区の子どもからお年寄りまで。
ボランティアとして、小学生～大学生、地域の大人たち、子ども食堂を始めてみたいと思っている人たち。

■場所・開催時間・利用料金

- (場所) 岡輝地区の福祉施設、公民館、コミュニティハウスなど
(開催時間) 毎月1回、第2日曜日
11時30分～13時30分
(利用料金) 高校生以上 300円 中学生以下 無料

■ひと

岡輝地区にある企業、医療・福祉、経済団体、NPOなど、さまざまな業種、分野にまたがり活動するメンバーが、「岡輝みんな食堂」を地域のネット

ワークの中継点と位置づけ、それぞれの得意分野を生かして、地域の活動を支援し、ともに活動しています。

■運営費

- (収入) 毎月の参加費。個人または、赤い羽根共同募金や岡山こどもの居場所連携事業からの寄付金。みんな食堂オリジナルグッズの販売(マスキングテープ・エプロン)
(支出) 食材費、物品購入

■ネットワーク

(協働団体)

佐藤医院(旭町)／ふたば司法書士法人(奥田)／えくぼホームヘルパーステーション(岡町)／のぞみクリニック(神田町)／鈴木屋(神田町)／メゾネット(奥田)／岡山市立岡輝公民館(旭本町)／チカク(倉敷市茶屋町 | 事務局)

(連携団体)

岡輝よりそいの会／岡輝ケアカフェ／岡山中央ロータリークラブ／フードバンク岡山／結音-ムスビネ-合唱団／子ども防災ネットワーク／おかやまつしまみんな食堂／子どもを主体とした地域づくりネットワークおかやま

■今後取り組もうとする方に伝えたいこと

だれもが孤独ではなくささやかな役割がある…岡輝みんな食堂の目指す未来は「楽しんで年を重ねられる社会」につながっています。

ひとりひとりが主体的に人生を選択し生き生きと日々を過ごせる地域。子どもたちと、ロールモデルとなる大人との交流。子どもたちの小さな発見や成長をともに感じ、だれもがささやかな役割を持てるような居場所がある地域。地域の未来を次世代につなぐために、多様な主体を巻き込みちいさなネットワークの輪を自らの手で楽しみながら活動してほしいと思います。

